

2018年12月19日  
ダイバーシティ推進室

ワーク・ライフデザインカフェ in 文学学院  
伊藤比呂美の人生相談ライブ

2018年12月19日に、ワーク・ライフデザインカフェ in 文学学院「伊藤比呂美の人生相談ライブ」を、戸山キャンパス 33号館 16階第10会議室で開催し、27名の参加者が集まりました。



導入では、伊藤先生ご自身の悩みに向き合う極意のお話として、本年の4月に教授となった際、小説を教える授業の出席率が低く、指導方法に悩んだり、大学というカルチャーになじめず戸惑ったこと、それらの悩み事を周囲にオープンに語ったところ、知り合いが次々と手助けしてくれる人が現れたことを挙げながら、「できないことがあったら『できません』と言えば、手を広げて助けてくれる人がいる。これ、大切なところですよ」と、人生相談ライブらしいメッセージで始まりました。

次いで、授業で毎時間実施されている「人生相談ライブ」のエピソードに触れながら、学生が抱えている悩みや価値観・実態を話されました。履修学生対象に行っている匿名アンケートでは率直な本心を記述する反面、なかには相手を傷つけることを目的とした内容もあると指摘し、文章の攻撃性を減らして読み上げるための言葉選びに悩んでいることや、その様子を見た学生から、長い海外生活の影響で低下した日本語能力をどうにかすべきだという指摘があったことなど、学生対応に苦慮している実態等を赤裸々に語られました。ご自身が遭遇してきた困難をオープンに語られる一方で、子育てを終えた後に配偶者を亡くされ、日常会話の相手を失うと生活にリアルを感じなくなるなど喪失感の強い日々を回顧しながらも、学生とのやり取りを『たくさんの卵を産み、適度な距離を保ちながら育てている気持ちになる』と表現されました。試行錯誤しながら、学生個々の本心に寄り添い尊重しつつ、愛情深く見守るまなざしにご経験の深さが滲み出ていました。

後半は、先生が新聞・雑誌・講演会や文学学院の授業等で実施されている「人生相談ライブ」です。参加者から、匿名で寄せられた10人分のお悩みや相談の全てにお答えいただきました。

昨今、社会問題の一つとして取り上げられている奨学金問題や介護、ライフシフトにまつわる悩みについては、周囲の犠牲にならない生き方をすることが大事であるとし、親には反抗しなさい、今やりたいことをやりなさいと言葉を重ね、貸与型奨学金を避ける手段として水商売を選択することの是非を問う質問には『賛否はあるが、将来の借金はない方が良いと思う。娘ならそう助言する』等、衣着せぬ言葉で語りました。また、自分らしく生きられる人間関係を選ぶことが解決の糸口になる、そのためには自己肯定が重要とし、具体的な訓練方法を添えてアドバイスをされていました。



就職活動に関する相談は「すごく多い」と前置きし、授業の中で寄せられた学生の多様な意見や海外の大学の例を紹介しながら、新卒一括採用は日本特有の現象に過ぎないことであり、世界の動向や就職後の人生を見渡して視野を広げた上で、「就活をするかしないかを決めることが第一歩。自分らしさを知り、向いていると思った道を選ぶこと。いずれ日本も、やり直しをしながら働き方を選んでいく社会になるだろう」と話されました。

最後に、「人生にゴールがあるとすれば、それは死ぬ瞬間であり、それまでの出来事は1つの過程に過ぎず目的ではない。紆余曲折の連続で、将来何があるかは分からない。変わりゆくのが人生」と悩みへの向き合い方を示されました。「『私は私』と呪文を唱えて自信を持ちつつ、上手くいかなくてもいいと割り切ろうと、心のどこかに留めておくといいと思う」という言葉で締めくくられました。



当日実施したアンケートには、「悩みが軽くなりました。凝り固まった考え方から解放されたような感じがします」「先生の言葉一つ一つが身に染みました。自分を肯定することが何よりも重要、と力強い応援を頂きました」「就活の話、とても参考になりました。委縮せず、堂々と自分らしく就活していきたいと思います」というような感想が寄せられました。